

## 不登校児童生徒の学びのチャンスを広げよう！

### GOAL 大人が学びのチャンスを一緒に探す方法を身に付ける！

日時：令和元年12月24日（火）

場所：北海道庁別館地下1階大会議室

参加者：126名

教育委員会、学校関係者、教育支援センター（適応指導教室）の職員等が集まり、不登校の未然防止及び支援として、“学ぶチャンス”を中心に協議を行いました。

### 【説明】不登校児童生徒への対応について

- ・「学校に登校する」という結果のみを目標とせず、社会的に自立することを目指すこと。
- ・学校教育になじめない児童生徒について、受入体制を整えること。また、様々な関係機関を活用し、社会的自立への支援を行うこと。

#### 不登校児童生徒に対する支援の方向性

○学校で学びたい児童生徒への学校復帰に向けた支援

○学校以外で学ぶ児童生徒への社会的自立に向けた学びの場の確保

### 【実践発表】小樽市教育委員会の実践（教育支援センターの設置促進支援事業）

- ・小樽市教育支援センターでは、今年度からICTを活用した学習支援を開始
- ・メールやFAXを活用した学習支援のほか、メールによる相談窓口を開設  
→不登校児童生徒に応じた支援の充実や、訪問型支援との併用による保護者との信頼関係の構築

### 【講義】不登校児童生徒への支援について 北海道教育大学札幌校教授 平野 直己 氏

#### <不登校について知ってほしいこと>

- ・不登校になると、生活空間がガッコウ（周囲の目にさらされる空間）とイエ（周囲の目から守られる空間）になりやすく、ガッコウやイエではない空間が縮小
- ・学校のことばかり考える自分のことと、なんとかしようとする周りの人たちへの申し訳ない気持ちで心身が消耗
- ・不登校児童生徒の環境資源として、「学校でも家庭でもない場所」などの何らかの居場所があるかについて、アセスメントが大切



#### <不登校児童生徒の支援において大切なこと>

- ・不登校のリスクは社会的孤立にあることを踏まえ、当該児童生徒及び家族の周囲に社会的なネットワークを構築
- ・学校に「行くか行かぬか」の2択ではなく、「行ったり行かなかったり」柔軟に往来できるようにすることを目的とした支援
- ・社会的な役割から少し離れた領域で、自己を振り返り、内省できる場所の確保

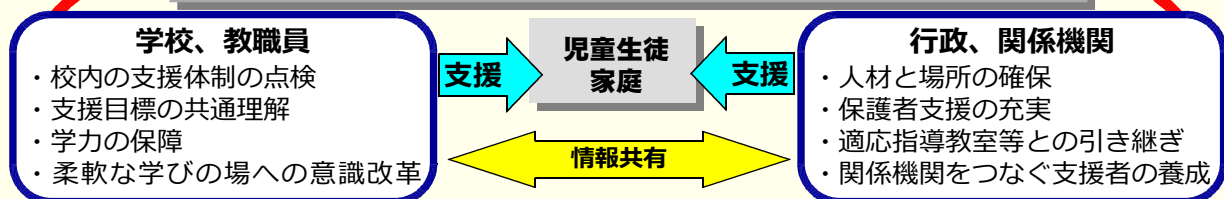
### 【協議】大人は、学ぶチャンスをどのように保障していくのか？

実践発表や講義を踏まえ、不登校児童生徒の「学校での学びの支援」、「学校外での学びの支援」に向け、課題や解決策について協議しました。

学校、適応指導教室、教育委員会、フリースクール等でグループごとに協議し、それぞれの立場から考えられる支援について情報共有しました。



#### 不登校児童生徒・保護者のニーズを踏まえた支援目標の設定及び役割分担



### 【まとめ】北海道教育大学札幌校教授 平野 直己 氏

- 不登校児童生徒と関わる人たちは、今一度**学校の意義と役割を再定義**すること。
- 関係機関と連携する「**大人同士の関係**」を見せることは、児童生徒にとっての何よりの学びであること。
- 義務教育から離れた児童生徒に、**声をかけ続ける人たちの存在**が大切であること。